

企業名： 東洋インキ SC ホールディングス株式会社

レポート名： 統合レポート 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

東洋インキグループは「世界にひろがる生活文化 創造企業を目指します」という言葉をスローガンとしているように「生活文化創造企業」つまり経済的な豊かさだけでなく、世界中の人々が各々の文化や価値観に立脚する心の充足を求めようとする中で、必要とされるものを生み出すことができる存在を目指している。東洋インキグループはSDGsの考えを導入して、10年後には「すべての生活者・生命・地球環境がいきいきと共存・共生する世界」を提供価値として、その実現に貢献する企業グループとなることを目指している。また、新型コロナウイルスの影響を受けたことで人々から本当に必要とされる製品やサービスを提供していくことを自覚させられていた。

この会社の競争優位性が理解できるか

環境意識が高まって生じた『グリーン』ニーズ、また、ソーシャルディスタンス志向やデジタルシフトの急激な進化がもたらす『デジタル』ニーズ。そして、コロナ禍で再認識された安全・安心や健康意識が高まって生じた『健康』ニーズの3つのニーズに対応する3つの重点開発領域を設定して急速に変わりうるニーズに俊敏に対応し、新製品の創出をするとともに、EV関連材料や医療品、新興国におけるパッケージなど成長市場に集中投資することで、重点開発領域の創出と拡大をグローバル規模で促進したり、事業の収益率を強化するなどの取り組みを積極的に行っている点で競争優位性が表れていると感じた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

競争優位性を維持するために長期構想 SIC27 をたて、そしてそれを3つの段階に分けて3年単位の中期経営計画でPDCAを回そうとしている。そして働き方改革、DXの促進、ガバナンス体制の変革、環境経営の推進といった取り組みを行っていることが分かった。そのため競争優位性に持続性があると感じた。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

東洋インキ SC ホールディングスは経営資源(主にヒト)の価値の向上を重視し、個々の力を磨き、世界と勝負できるような人材を生み出すための取り組みや女性の社会進出のための取り組みを積極的に行っていることが読み取れた。そのため、この会社では人的資本の価値向上を達成できると思う

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

東洋インキ SC ホールディングスが抱いている中長期のビジョンを達成するための様々な取り組みが具体的に述べられてはいるが、それに関して当社の独自性が見いだせなかったと感じた。なぜ当社だからこそのような計画が達成しうるのかということの説明が書いてあるととても信用できると感じたためこの点について改善の余地があると思う。